北海道浮魚ニュース

平成 14(2002)年度 21 号（通巻 No.141）
2002 年 10 月 4 日

北海道立水産試験場

◎平成 14 年度 北西太平洋サンマ長期漁況海況予報(漁期後半の見通し)

10 月３日に「平成 14 年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報(漁期後半の見通し)」が発表されましたので，お知らせします。なお，独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所のホームページに，より詳細な予報文が掲載されていますので，ぜひご覧ください。

独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所　***URL：　http://www.myg.affrc.go.jp***

今後の見通し（2002（平成 14）年 10 月～12 月）

漁況

(1)**来遊量：前年をやや下回る。**

(2)漁期・漁場：道東の漁場は 10 月末まで持続し，その後漁況は次第に低調になる。三陸・常磐沿岸の漁場形成はやや遅れて，散発的。常磐沿岸域は，親潮第 2 分枝からの来遊が期待出来る。

(3)魚体：大型魚主体で推移するが，次第に中小型魚の割合が増加。

海況（図１，２参照）

(1)沿岸の親潮は，ほぼ平年並で推移し，三陸南部から常磐近海では一時的に冷水域の影響がある。沖合の親潮は，平年並からやや南寄りで推移する。

(2)金華山沖にある暖水塊は，北西へ移動する。

(3)東北近海の黒潮は，平年並からやや南寄りで推移する。

［漁況予測の説明］（予測海域：道東～三陸～常磐海域　予測漁業：さんま棒受網漁業）

(1)来遊量について

棒受網漁業による漁獲量は，9 月末現在で昨年同期比 68%となっており，CPUE（1 操業当たり漁獲量）も昨年より低めに経過しているので，漁場域への来遊資源量は昨年をやや下回っているものと思われる。一方，調査船（北鳳丸・北辰丸）による調査結果では，沖合域の漁獲分布は昨年より高い。また，親潮第 2 分枝先端部にも大量の魚群が見られた。このことは，北海道・東北東方海域全体に来遊しているサンマの資源量は昨年同様高い水準であるが，主な漁場となる沿岸に近い海域に来遊しているものが昨年より少ないことを示していると思われる。本年夏季の千島列島付近の表面水温は低く経過したため，サンマの千島列島近海及び以北への北上は抑制されたと推測される。このような場合，親潮第 2 分枝を南下する魚群が増加し，第１分枝を南下する魚群が減少すると考えられている。

(2)漁期・漁場について

道東沖の漁場については，　9 月下旬の魚体が依然として大型魚主体であることなどから，しばらくは持続するものと判断した。海況予報では，①親潮第 1 分枝の南への張り出しが平年並みで，親潮第 2 分枝の張り出しがやや南寄りとなること，②三陸近海に勢力の強い暖水塊があって北西に移

動することが予測されている。これは，親潮第１分枝を南下する魚群が暖水塊によって阻まれ易い状態にある反面，親潮第 2 分枝を南下する魚群は比較的南下し易いことを示している。したがって，三陸沿岸域の漁場形成条件は良くないと判断され，形成時期も遅れ，漁場形成も不安定であろう。第 2 分枝がやや南まで張り出すこと及び常磐沿岸に冷水域が残ることから，常磐海域は親潮第 2 分枝からの来遊が期待できるだろう。

(3)魚体について

６・７月に行われた漁期前調査で大型魚の資源量が多かったこと，漁況経過でも 9 月下旬の時点で，大型魚の漁獲が多いことなどから，今後も大型魚主体の漁獲が続くと思われる。しかしながら，例年の傾向として，大型魚は成熟とともに南方の産卵場へ去ることから，魚体組成は次第に中小型魚の割合が増加するであろう。

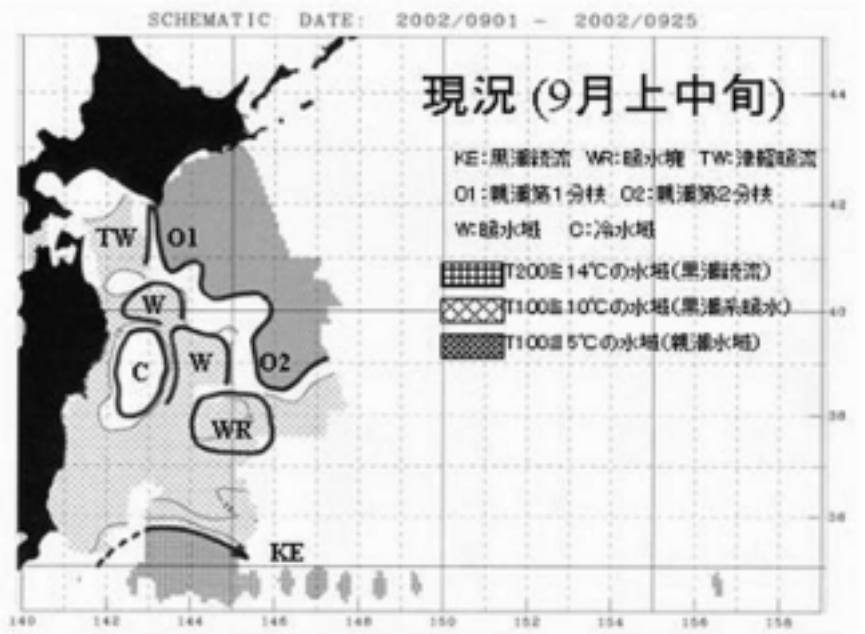

図１　海況の現況（９月上中旬）

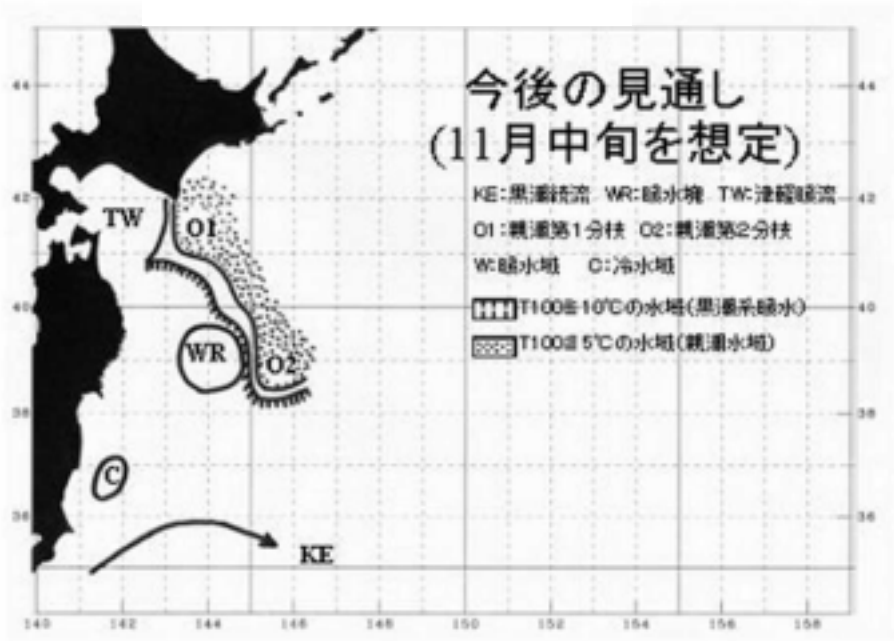

図２　海況の今後の見通し（11 月中旬を想定）

（文責：釧路水産試験場 資源管理部，TEL:0154-23-6222，FAX:0154-23-6225）